

インディアナ日本語学校便り

だいごう
第38号

令和7年2月22日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

「児童生徒の作品集⑦」

～学習のまとめ～

校長 森 勝義

「考える」とは

6年1組 飯田 逸士

ぼくは、石黒浩さんの「考えることを考え続ける」という文を選びました。浩さんは、小学5年生の時に「人の気持ちを考えなさい。」と先生に言われたそうです。ぼくも同じことを言われました。浩さんは「気持ち」や「考える」とは何かを、5年生の時から疑問に思っていたそうです。今はロボットの研究をしていて、「気持ち」や「考える」が今のロボットの研究するためのテーマになっていると言っています。ぼくは、考えることが何か分からなかったけど、この文を読んで分かったかもしれません。ぼくにとって「考える」とは、こわいことや分からないことに立ち向かうことを、考えることだと言うのではないかと思います。その分からないことに立ち向かい続けるというのが、考え続けると言うのではないのでしょうか。

「考える」とは

6年1組 羽田 康生

「考えるとなやむこと」を読んで印象に残ったことは、先輩の「考えることとなやむことを混同したらだめだよ。考えるというのは、自分と似た作品を作っている劇団があるか調査したり、観客が何人以上なら利益がでるか計算したりすることさ。おまえは「うまくいくかなあ。」「不安なんですよねえ。」となやんでいるだけだよ。」という発言です。理由は、ぼくも自分の将来の夢に迷っていて、「ちゃんとうまくいくかなあ。」と考えているつもりでしたが、それはなやんでいるだけだったんだと気づかされたからです。自分の知識や経験と比べて気づいたことは、家族とお出かけに行くとき、「どこに行きたい？」と聞かれたときぼくは「うーん公園もいいなあ、ゴルフもいいなあ。」と考えてしまいましたが、「なやんでないで早く決めて」と言われました。ぼくは今まで、真剣に考えていて、なやんでないと思っていましたが、この文章を読んでぼくはずっとなやんでいたんだと気づかされました。自分の考えとの共通点は、迷ったら箇条書きにしてみることです。ぼくもまよったら箇条書きにしてみても、「考えることとなやむことを区別」します。「考える」ということについて、ぼくは「人間の可能性を広げ、人間を成長させる」ことだと思います。理由は、人間はものごとを考えそれを行うことで新しいことを学び、生活に生かすことで発展してきたからです。

2月22日作品

土曜パラダイスで紹介

小学4年1組 斉藤 晴太 「はるがくる あたたかくなり うれしいな」
小学3年2組 岡 瑞帆 「ゆうやけは オレンジいろで きれいだな」
小学4年1組 北山 雅彦 「来る君を 待ちてふりつむ 湿り雪」
小学3年3組 油家 心海 「おしごとを がんばるママは すごいなあ」
小学2年2組 後藤 楓 「日本のね ごはんがこいしい 寿司食べてえー」
小学6年1組 ラスピナ陽光 「6の1 まどの外とり いっぱいいる」
職員 「春到来 学校中が さくら色」
小学6年1組 ロス 実夏 「雨の音 パラパラ降って おちつくな」
小学2年1組 小堺 寛也 「さむいとき ぼくのともだち はんそでだ」

ダジャレコーナー

小学5年2組 骨折ボーイ 「石の意思」
小学1年3組 白井 朝陽 「カレーを食べたら おつかれー」
小学3年1組 遠山 聡甫 「アレクサに あれ?くさ」



ヒゲ森の言葉の森・探検

てんか たいへい

天下泰平

世の中がよく治まり、平和なこと。「泰平」は世が平
穩に治まる意

発見とは人と同じものを見ながら、人
の気づかないものを見つけてることであ
る。

セントジェルジ・アルベルト

1893年〜1986年 ハンガリーの生化学者。

常識や先入観にとらわれず、視点を変えてみよう。大きな
発見につながるかもしれない

児童生徒・保護者の皆様、ご自分で歌ってきた卒業式での曲名を教えてください。
俳句応募用紙に書いて投函お願いします。